

年號勘者

統慎始之義可謂兩得之矣。謝肇淵稱其卓越千古、非虛論也。嚮者所謂粗略於始先、而精詳於終後、不其然乎？雖非先王之制、而亦能本於先王之意、則雖百世遵行可也。

明治元年を距ること七十八年、既に此論を立られしは卓見と謂ふべし、よりて此に附記す。

〔菅家文草四詩讀改元詔書絕句〕

明王欲變舊風煙、詔出龍樓到海壠爲向樵夫漁父祝、寃平兩字幾千年。

〔光臺一覽四〕抑又菅家と申は、道眞公的々の御苗裔として、今に文筆を家業とせらるゝ事也。高辻、五條、東坊城、唐橋、清岡、桑原、四軒は本家等同にて、清岡桑原は庶流也。○中 又年號之事も、此家より選出事に候。

〔譚海四〕年號の文字は文章の博士より撰進する也。菅家江家かわるぐ撰びて奉る也、其年の年號行るゝ間は、年號料とて、公儀よりその家へ別祿を百名ヅ、賜る事なり。

○按ズルニ、此ニ菅家江家互ニ年號ヲ勘進スル如ク云ヘレド、必シモ然ラズ、後世ハ獨リ菅原ノ一流ノミ勘進シテ、他家ハ殆ド之ニ與ラズ、又年號料ノコトモ他ニ所見ナシ、甚ダ疑フベシ。

〔江吏部集中〕長保寛弘之間、天下幸甚、老儒不堪傾感、聊述所懷。

長保初年開后房、寛弘頻歲誕親王、二之年號臣所獻、仰望江家父子昌謹檢舊事、延喜年號紀中納言相、天曆年號江中納言所獻、其子齊光、頻歷顯要、列卿相、長保寛弘之政擬廷喜天曆江家因斯所憑居多。

〔親長卿記〕文明十九年四月廿五日、勘者事翰林一人之間、今一人可被召加別勘文、唐橋前中納言、日野前中納言量光、菅宰相、在永高辻三位長直等可被載御點歟之由申了、廿日、今日改元定也。○中抑今度勘者事、日野前中納言量光御點也、雖然在國、因幡近日依國中亂逆、通路等不叶之間、可罷上候事不叶之由、以便宜申上之由、父一品資綱申之、近代年號勘文、日野一流不進勘文、今度不參無念之至歟、各以此所存、雖爲何様之儀可召上之處、處于口外之條、且口惜且未練之至也、菅原五人不交。